

1. 改訂の目的

本市では、将来にわたって水道事業を安定的に継続できるよう、経営基盤強化と財政マネジメントの向上に取り組むため、中長期的な経営の基本計画である「八幡浜市水道事業経営戦略」を平成30年3月に策定しました。

しかしながら、水道事業を取り巻く環境は、人口減少や物価高騰などにより経営を圧迫するほか、7次にわたって整備してきた水道施設が老朽化を迎え施設の更新や耐震化が必要となっているなど厳しい状況となっています。

本計画では、水道事業の現状や課題を整理し、昨今の社会情勢を踏まえて、将来への経営や投資（施設整備）を可能にするため、今回見直しを行いました。

本改訂は、令和7年度～令和16年度までの10年間の計画期間とし、現状の把握と課題の整理、他の事業者との比較も行いながら分析しました。

2. 水道経営の現状と予測

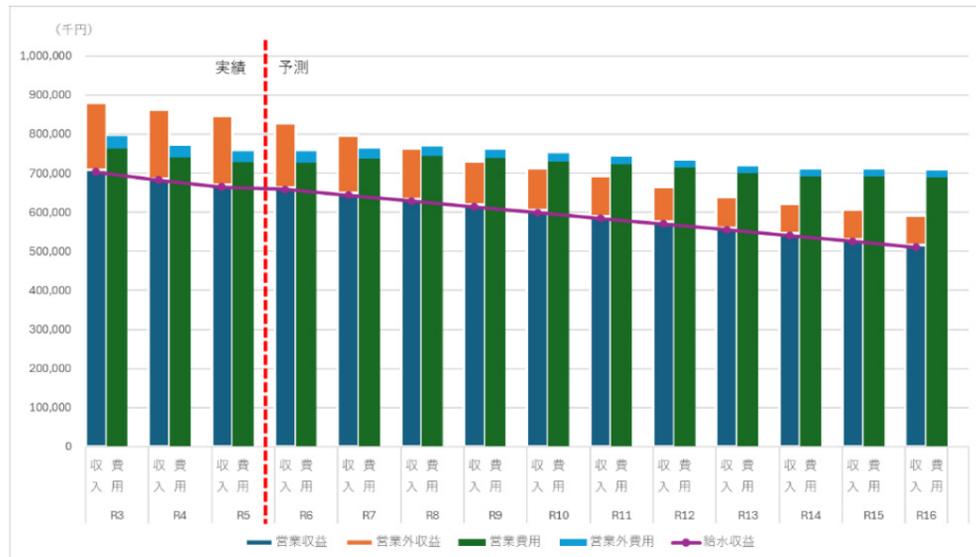
現在は、水道事業全体では単年度黒字を維持していますが、営業損益では慢性的な赤字となっており、一般会計からの繰入金によって損失を補っている状況で、給水収益だけでは賄えていません。

今後さらに給水収益が減少するほか、一般会計繰入金の減少により、令和8年度には約530万円の赤字になり、以降は給水収益の減少に伴い損失額が膨らんでいくことが見込まれます。

収益的収支の見込み

	令和3年度	令和5年度	令和7年度	令和8年度	令和11年度	令和16年度
営業収益	708,703	670,330	648,944	634,120	589,834	516,026
うち、給水収益	702,551	664,912	643,502	628,739	584,452	510,641
営業費用	762,729	728,549	736,348	743,888	722,539	690,231
営業利益(損失)	▲54,026	▲58,219	▲87,404	▲109,768	▲132,705	▲174,205
営業外収益	171,841	176,026	146,660	128,172	102,438	76,288
営業外費用	30,934	28,288	26,583	23,746	19,211	16,410
経常利益(損失)	86,880	89,518	32,673	▲5,342	▲49,478	▲114,327

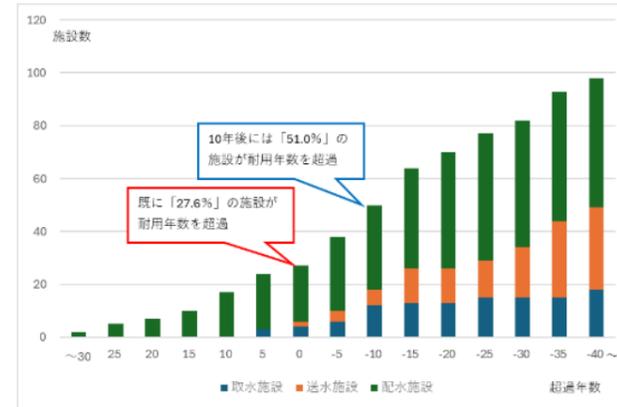
(単位：千円)



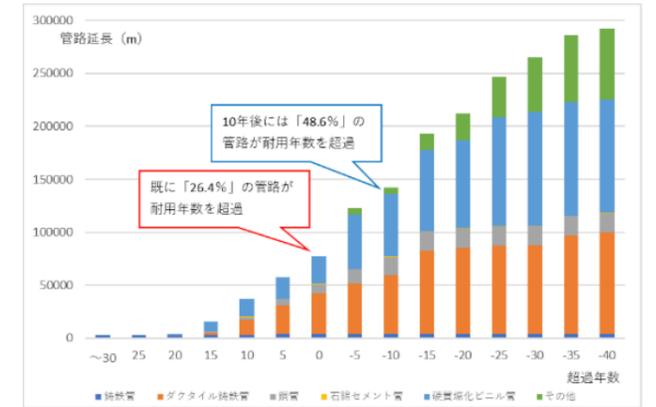
3. 水道施設の状況

本市の水道施設は、取水施設、送水施設、配水施設など100箇所近い施設を有していますが、今後10年間で水道施設は51.0%、管路では48.6%が耐用年数を超過し、施設の老朽化が懸念されます。

水道施設（管路除く）の耐用年数の超過状況



管路の耐用年数の超過状況



2022年 五反田千量地区漏水



2024年 真網代地区漏水



4. 課題の整理

(1) 財政状況の課題

- ① 人口減少に伴う給水収益の減少
 - 令和5年度と比較すると、令和16年度では約1億5,000万円の減少が見込まれる
- ② 単年度赤字の見込み
 - 令和8年度には約530万円の赤字が見込まれる

(2) 水道施設の課題

- ① 施設の老朽化に伴う漏水が頻発

令和5年度経営比較分析表

	八幡浜市	県下11市平均	全国類似団体平均
有収率	77.86%	84.03%	80.13%

5. 目標設定

(1) 投資に関する目標設定

これまでも水道施設及び管路の更新（耐震化）事業を進めてきましたが、災害等に強い水道を構築するため、引き続き管路及び水道施設の更新（耐震化）を実施します。特に、基幹管路や重要な施設となる配水池の耐震化を図り、耐震化率向上を目指します。

投資の目標設定（施設の耐震化率）

施設	令和5年度 (実績)	令和16年度	備考
基幹管路	35.2%	45.4%	基幹管路の耐震適合率＝基幹管路のうち、耐震適合性のある延長÷全基幹管路延長×100
浄水場	1.5%	1.5%	浄水場の耐震化率＝耐震対策の施された浄水施設能力÷対象全浄水施設能力×100
配水池	20.9%	33.8%	配水池の耐震化率＝耐震対策の施された配水池有効容量÷対象全配水池有効容量×100

矢野町 耐震化工事



(2) 財政に関する目標設定

今後計画している更新（耐震化）工事を実施するほか、災害等の不測の事態に備えるため、単年度黒字を維持しつつ、自己資金の確保に取り組みます。

近い将来発生が予想されている大規模災害を想定し被災した施設の復旧費用を確保するほか、更新（耐震化）工事や固定費などあわせて15億円の資金確保を目指します。

財政の目標設定

目標項目	令和5年度 (実績)	令和16年度	備考
経常収支比率	111.83%	100.00%	収益性を表すもので、100%を上回ると黒字を示す。
累積欠損比率	0.00%	0.00%	累積欠損金有無を示す。
流動比率	639.46%	500.00%	短期債務の支払能力を示すもので、100%以上が望ましい。
企業債残高対給水収益比率	292.65%	300.00%	企業債残高の規模を示すもので、低い方が望ましい。
期末資金残高	15.7億円	15.0億円	

6. 目標達成に向けた行動計画

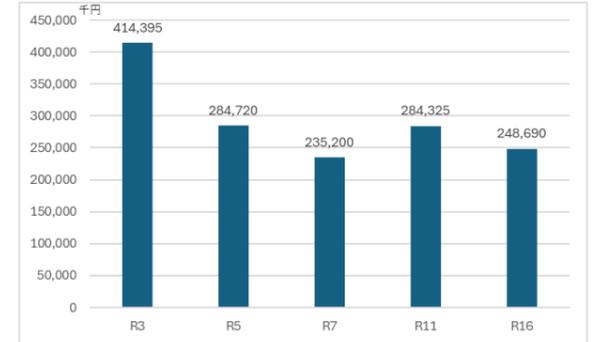
(1) 投資に関する行動計画

近年増加する災害に強い持続可能な水道施設の構築のため、引き続き更新（耐震化）工事を進めます。特に重要度の高い水道施設及び管路を選定し、優先的に整備を進めます。

行動計画5項目

- ① 水道施設及び管路の耐震化の推進
- ② 愛宕第4配水池の供用開始
- ③ 重要な配水池の耐震診断（詳細診断）
- ④ 水道施設の統廃合、管径のダウンサイジングの検討
- ⑤ 老朽化した水源地の再構築の検討

建設改良費の見込み



主な水道施設の更新計画

給水区域	工事内容(R7~R16)	前回期間 (参考)		今回経営戦略計画期間														
		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16				
南予用水 (松柏水源) 水系	愛宕第4配水池築造工事				→													
	配水管更新(耐震化)工事 φ50 ~ φ200 2,990 m				→													
	小計				→													
川之内 水系	川之内配水池(耐震診断)						→											
	配水管更新(耐震化)工事 φ75 80 m																	→
	小計							→										→
神山 水系	神山配水池(耐震診断)							→										
	神山水源地改築工事																	→
	配水管更新(耐震化)工事 φ75 ~ φ200 1,770 m							→										→
	送水管更新(耐震化)工事 φ200 860 m																	→
小計							→										→	
川筋 水系	配水管更新(耐震化)工事 φ75 80 m						→											
小計							→											
旧保内 水系	高区第2配水池耐震診断								→									
	第3水源地改築工事																	→
	配水管更新(耐震化)工事 φ100 ~ φ300 2,660 m																	→
	送水管更新(耐震化)工事 φ50 ~ φ150 1,475 m																	→
小計																	→	
その他 市内 一円	水道管網計算・基本設計・認可設計									→								
	単独建設改良費										→							
	小計										→							
合計	φ50 ~ φ300 9,915 m																	

(2) 財政に関する行動計画

国庫補助金等を活用し、企業債の抑制を図りながら、資金確保に努めます。また、将来の水需要に応じた投資に努めますが、今後収益確保が難しくなるため、経営状況を注視しながら、料金改定についても検討します。

7. 今後の検討予定

今回改訂した経営戦略は、目標年度を令和16年度とし、令和7年度から令和16年度までの10年間に実施すべき具体的な投資・財政計画を示したものです。

本経営戦略に沿った取り組みの進捗管理を行うとともに、概ね3~5年ごとに見直しを行い、将来にわたって安定的な事業を継続し、持続可能なサービスの提供を目指します。